メモリーツリー作成のヒント

メモリーツリーは、自分の思ったように、自由に作っていくほうがよい。しかし、そう言われてもどう作っていいかわからない、という人のために、メモリーツリーのいくつかのパターンを、作り方のヒントとして書いておこう。

①時系列を意識したメモリーツリー

このパターンは、「～時代」や「～帝国」といった、比較的大きなテーマについてメモリーツリーを作るときに使うと効果的だ。

このパターンでは、ツリーの幹や太い枝を、時系列に沿って描いていく。木の根には、その時代や帝国が出現する原因となった背景に関する単語を並べ、幹にその時代や帝国で起こった出来事、皇帝などを時系列に沿って並べながら、上へ上へと伸ばしていく。もしその時代や帝国などから派生した大きな内容があれば、それを太い枝として、右や左に伸ばしていく。さらに、これらの幹や太い枝から、細かな内容を、細い枝として伸ばしていく、といったかたちだ。木が成長していく様子をイメージしながら、AからBへ、BからCへ、というように、単語をつぎつぎに並べていこう。

こうしてメモリーツリーを作ることによって、歴史の「流れ」をつかむことができる。また、細かな事件などが、いつの時代に起こったことか、視覚的に整理できる。

②国や地域を意識したメモリーツリー

このパターンは、短いスパンで起こった出来事について、メモリーツリーを作るときに使うとよいものだ。具体的には、「～戦争」や「～事件」といった内容である。

このパターンでは、まず国や地域を重要単語として、太い枝に大きく書く。その際、何も考えずに単語を配置するのではなく、地図を思い起こしながら、できるだけ実際の位置関係に合わせるとよい。たとえば、近代のヨーロッパで起こった戦争や事件を題材にするなら、左からイギリス、フランス、ドイツ、オーストリア、ロシア、というように並べていく。そうすることで、位置関係を問うような問題が出てきたとき、対応しやすくなる。

国や地域を太い枝に書いたら、その国や地域に関係する内容を、細い枝として伸ばしていく。こうしてメモリーツリーを作っていくと、同時代にどの国でどんな出来事が起きていたのか、それぞれの出来事のつながりは何か、といった内容が把握できるのである。

③人物にスポットをあてたメモリーツリー

このパターンは、ナポレオンのような、たくさんのことを成しとげたり、さまざまな人や国に影響を与えた人物について、メモリーツリーを作っていくものである。

このパターンでは、まずツリーの中央に、その人物の名前を大きく書く。そしてそこから、その人物が行ったことを、政治、経済、文化、軍事、他の人や国への影響、といったように分類して、細い枝にして伸ばしていく。異なる分野の内容同士に関連性がある場合は、それも細い枝でつなげていく。

こうすることで、特定の人物の行動の目的や、一見バラバラに見える政策のつながりが見えてきて、記憶に残りやすくなるのである。

以上のパターンは、あくまで「ヒント」であり、これにとらわれる必要はない。②のパターンでも、国や地域の中で起こったことを、①のように時系列で並べていってもよい。また、①や②に比べてこぢんまりしたものになりやすい③のツリーを、①や②のツリーの中に、「ミニツリー」として組み込んでいくのもよい。もちろん、自分で新しいパターンを作りだしていくのも、学習に効果的だ。

メモリーツリーは、作成していく過程で、歴史の流れや出来事の関連性を視覚的に理解し、バラバラだった単語をまとめたものとして覚えていくものである。そのことを意識しながら、自分の思考パターンに合ったメモリーツリーを作り上げていこう。